

令和5年度 八千代町総合教育会議 議事録

【日 時】令和6年2月14日（水）午後1時55分～午後4時5分

【会 場】八千代町役場 町長室

【出席者】

（構成員）野村町長、関教育長、染野教育長職務代理者、松村教育委員、赤荻教育委員、谷中教育委員

（事務局）馬場秘書公室長 小林教育部長 関学校教育課長
市村秘書課長 大里補佐兼係長、坂本係長

【議事内容】

1. 開 会

- ・午後1時55分 馬場秘書公室長、開会を宣言する。

2. 挨拶

- ・野村町長
- ・関教育長

3. 協議事項

- ・意見交換等

（1）児童生徒の減少による今後の学校のあり方

染野教育委員

今後、町全体で子供たちの数が100名を切ってしまいます。一中ができて10年ちょっと、東中ができて8年ちょっとっていうようなことで、これを活用できると良いです。また中結城小学校でも、3、4クラスの対応ができるのではないのでしょうか。駐車場も広いし良い敷地だと思います。明野の義務教育学校のように、中学校の敷地に小学校を建てるのが良いのでは。学校の適正規模を考えますと2～3クラスが必要。単学級ですとどうしても人間関係が固定してしまいます。クラス同士が切磋琢磨する機会がなく、学ばなくなってしまうのでは。中央公民館・総合体育館も古く雨漏りをしています。社会教育施設として既存の新しい校舎を有効に使うことも考えられます。

松村教育委員

学校規模の適正化と財政の効率化を考えると、少人数制がいいという面もあるが、個別的な学びと共同的な学びを並行するには、人数がいなくなかなか難しいところかなど。統合のメリットとしては、教員の確保や人数を安定させて多面的な観点で指導ができたり、各学校にかかる経費などが抑えられるのでは。児童の人数が増えることで色々な意見を出し合って切磋琢磨できるっていうことがあります。

デメリットもあると思います。環境変化に対するストレスや学校に対する不安感等出てくるのではないかと。歩いて通っていた学校にバスで通うようになるとか、地区や通学班がなくなることで、個人で気を付けなければならない事が増えたり等、子どもや保護者もストレスが発生した場合ケアも必要になってくるし、そのケアをする場所も必要になるのではと思います。

また使わなくなってしまう学校の使い方に関しては、社会教育施設とか福祉施設として活用してはどうか。雇用促進を見込んでベンチャー企業や、各企業にオフィスを構えてもらう形にして人を集めるのは良いのでは。

赤荻教育委員

保護者の立場で考えた時に、学校のあり方についてどんどん話し合っていければという思いがあります。保護者も知りたいところだと思うし、色々意見言いながら、これから進めていけたらいいのではないかと。

今後空いた施設は、八千代町は農業が基幹産業で実習生もいるので宿舎とか農業をやりたいという若者が使える施設に使えたら良いのでは。

谷中教育委員

県が出している適正規模は、小学校は複数学級、中学校は3学級というのがあります。中学校3学級以下だと、9教科の教員配置する時の標準法という法律があり、9教科配置ができなくなる可能性もあります。少子化で単学級で9年間というのは非常に厳しく、東中学区で言うと数年後ぐらいからは6年間単学級、中学校に行っても単学級が生じることが考えられます。

統合することによって、教職員の確保や行政が学校に投入する予算の面も非常に効率化が図れて、同じ予算ならば1人あたりに対してかけられるお金が増えます。ただそこで問題になってくるのは、地元の人々の愛着であるかと思われます。小学校、中学校がなくなるというのはショックだし、感情的に納得できないという部分もあるのでは。それも含めて、将来の八千代のために話を進めていき、良い方向に融合し活力に変えていくっていう方向性を示していく必要があるのでは。

空く施設に関しては、各地区の防災であるとか、福祉、地域コミュニティの拠点化として各地区ごとで工夫して活用し、総合的に進めていくことが必要になってくるのではと思います。単純に学校の統合対応だけではなく、防災や地域のコミュニティも考え、様々な価値として考えられるメリットを色々考えた上で総合的に進めていくことが必要なのは。

ただやはりその時に1番重要なのは、中心は誰なのかということ子供です。将来、八千代を支えてくれる子供たちがどうありたいのか、我々はその子供たちのために何ができるのかっていう視点を常に中核に持ち進めていくのが非常に大事なことなのかなと思います。

野村町長

各委員さんから意見を頂戴しました。ありがとうございます。まず最初におさえるべきなのは、谷中委員さんが言ったように「大義」です。道なき道を歩むときに一番必要なのは、我々は何のためにこの仕事をしているのかということで、子どもたちをきちんと育てる。たくましい、自分で考えて自分で行動できる、どこの世界に行っても通用する、そういう町の将来を支えるような人を育てたい。それが大義にあると思います。そのために学校はどういう風にあるべきかと考えるのが、筋道かと思えます。

各地区で座談会を行った時に皆さんに対して「地区の枠も超えます」「肥土と野方という枠も超える。そこまで私は考えています」ということを皆さんに伝えてきました。「町のために1つになって考えていただきたい。」ということをお願いしたい。町のデータに基づく子供たちの数、能力、地域の感情、そして中心にあるのは、健全な子供たちを育てられる環境をいかに作れるかという思い。そこはしっかり持っていただきたい。結論にたどり着くまでに、皆さんの意識の共有化が必要であり、そうでないと先に進むことはできないという風に思えます。

もう1つ跡地の利用については、この学校のあり方とは別に考えていかななくてはならないという風に思っています。住宅にするのか、企業にするのか、あるいは、地域の公民館にするとか。委員さんからありましたように、施設の建て替えがあるので順番を決めなくてはならないというのもあります。学校の問題、公民館、体育館、新しい機能を持った施設を作る順序。そこにグリーンビレッジの再整備もありますし、旧中山邸も整備する。財源には限りがあるので、いっぺんにはできないと思います。

また、「義務教育学校」という考え方について、何かメリット・デメリットがあれば、少しお聞かせいただければと思います。私は小学生のころ、中学生と一緒にでした。登下校の際、あるいは部活の際、すれ違う時なども挨拶をする等礼儀を学びました。多くの人の中で生きる知恵を中学校の先輩から学んだんだなという思いがあります。

谷中教育委員

小中一貫教育という観点からすると、やはり9年の義務教育を通しての一貫した教育ができるという意味では非常にメリットがあります。小学校、中学校は別々の敷地の一貫校や、あるいは全部一緒にして義務教育学校という形、様々な形がありますが、場所を別々にすると連絡調整が非常に煩雑になって、実施するならば理想的には1か所のところに全部集めることが良いのでは。

明野地区や桃山地区、結城地区等、近隣でも始まりますので、そういったところをじっくり見て検討しても良いかと思えます。続けてやると非常に良いです。9年間の見通しで出来るという事を考えると、非常に教育的な効果としてはメリットが大きいです。また、部活動のあり方が変わりますので、どういう形で色

んな活動を保証していくか考えた時にも、お兄さん、お姉さんと一緒に何か活動できるという機会は非常に子どもたちにとってはプラスになると思います。

野村町長

デメリットはありますか？

関教育長

デメリットは、節目がなくなる事は考えられます。入学式と卒業式、小学校1年と中学校3年にしかなくなるというのはありますが、あまりデメリットはないかと思います。ただ、校長先生が1人ということになると、1人にかかる仕事量が多くなります。

義務教育でも小中一貫校でも、併設していれば先生の横の移動ができます。小中一貫校だとしても隣接していれば、お互いの話し合いや時間割の組み方によっては十分可能になってきます。

野村町長

新成人の方に「八千代町で学び育って、どういうことが不都合でしたか。どういう課題があったでしょうか」とアンケートしました。皆さん「楽しかったです」という意見しかなかったです。では実際に、子供たちは「どういう教育を受けたいのか」にアンケートでは「いい先生と巡り合いたい。優しく教えてほしい」という答えがありました。

また子育て中の保護者に集ってもらい意見交換会を実施しました。「こういう学校がいい」というような意見は出ませんでした。保護者の皆さんはトータルで考えていました。勉強だけでなくスポーツで活躍してほしいから、部活に対しての要望は強くなっている感じを受けました。様々な意見を聞きましたが、町に素晴らしい環境の学校作り・維持することは大事なことで、これはやらなければやらないことだろうなと考えています。

(2) 教育の観点からの町の活性化について

染野教育委員

2回ほどコミュニティスクールに研修視察に行っています。教育の要望と地域の人材、提供ができるものをマッチングさせられれば、学校と地域が結びついて活性化していくのではないかと。本日の資料の中にある、地域学校共同活動が進んでいけばいいかと思います。コーディネーターの育成が必要になるのでは。

松村教育委員

人が集まらないところに活性化はないと思います。やはり保護者が助かる、子どもが有意義という観点でいくと、入学支援や語学研修を無償にする等、大きく

打ち出せる部分があると良いのでは。また、大きな大会とかイベントができる施設があるかないのとでは、大きく違うと思います。利用する方には施設料を支払ってもらうのは前提になりますけど、いろんな地域の人が使え施設があっても良いのではという意見はよく聞きます。

また、やはり地域活性化を行うための要素をちゃんと考える。例えば、地域の課題と発見、目標設定、何が課題で何がダメでこの目標が達成できないのかというのと、地域の資源の棚卸してその地域の資源をどう生かすかを考えると良いのでは。

そして、助成金・補助金について、自分たちで大会を開く時に、個人で大会を開こうと思ったらこれだけお金がかかるけど、八千代町に申請したら助成してもらえよとなれば、いろんな大会やイベントを開催できるようになるのかなと思います。

赤荻教育委員

子供たちが減ってしまったら活性化できないのではという思いがあって、増やすために子供たちへの大胆な投資という部分で、情報発信をお願いできれば。インパクトがあるような支援や助成があれば、すごく魅力だと思います。

また、地域の方々と子供たちのコミュニティの場ということで、昔は町民運動会がありました。あの時は、子どもから高齢者まで集まった楽しい思い出があったので、またあると活性化するのかなって思いました。

谷中教育委員

将来を見越した上でということ、八千代町で育った子どもたちが地域で活躍できる環境が必要かと思います。今住んでいる、そして今育てている子どもたちが、八千代町で将来八千代町を支える、そういった戦力として育ててくれることが大事なのかなと思います。

そのためには、地元の魅力がある仕事があるという体制になっていけるようにと思います。また、八千代町から通える、十分ここで生活できるということを保障していくことも流出を防ぐ1つの手立てになっていくのかなと思います。

2つ目は、将来を担う人材育成のための先行投資の仕組みを考えてはどうかということです。1番大事なことは、チャンスは平等であってほしいという思いがあります。例えば奨学金制度について、税金を使うだけが全てではないので、企業から基金を募るとか、ふるさと納税の仕組みも活用して、地元の子どもたちのために投資してみませんかという触れ込みがあってもいいのでは。

また海外留学や先行技術習得について、農家の後継者育成というのも大事なことだと思います。農業の方面でもこれから発展する事を考えた時に、先進技術の農業を取り入れて生産性を高めていく等、先進技術習得の専門学校に行く際の援助を行うこと等もどうかと思います。

3つ目は、郷土に関心を持ち、郷土を愛する。地元を愛して、地元の良さを知り、そこで生きていくという子供たちを育てていくための教育も推進していく必要があるのでは。中学生が将来の八千代町構想のプレゼンを行うという活動等、これから八千代町を担うであろう子供たちが町の将来を考えて、いろんな夢を語り合う、提案し合う機会は、ぜひこれからもっと充実させていければと思います。いつも大人が子どもに影響を与えるのではなく、子どもたちからすることで町民の皆さんに当事者意識を持っていただき、将来の町を考えてもらうきっかけ作りになるのではと思います。

野村町長

情報発信については、八千代町行政の大きな欠点であるという風に思っております。改善していかないといけないと思っております。テレビ、マスコミの力はやはりすごく、以前満天青空レストランで白菜が取り上げられましたが、インパクトが大きくて。メディアをうまく使っていくのも必要だと思っております。

都会への人口流出を防ぐという意味では、故郷意識の教育であり、そのイベント等の取り組みが関わってくるのではと思います。最近よく、運動会やってもいいよと言われます。町全体でまとまる事業がないという風に、夏まつりはお御輿をする人が中心であり、秋まつりは文化芸術になります。みんなで集まって運動するイベントはないという話で、言われてみるとそれはそうだなという思いがあります。コーディネーターの件は地域おこし協力隊を募集して良いと思います。

(3) 多文化共生に向けた外国人保護者、児童生徒への支援体制について

染野教育委員

安静地区でも研修生が多くいます。言葉の問題もありますが、学校が終わった後に、学童施設や学習支援あるいは保育が出来れば。学校外で自由に話のできる機会があるのではと思いました。

いろんな国の人たちがいるので、伝達方法が難しいです。ゴミの収集についても、ルールを守ってもらうのが難しいです。町の外国人交流ボランティア活動のような取り組みはとても良いと思います。

松村教育委員

都内のゴミ置き場ではいろんな国の言葉でゴミの分け方が写真付きで書いてあったり、わからない方はこちらと外国人専用のインフォメーションがあったりします。

個別にルールの広報は難しいと思います。公民館等に集ってもらい、説明しても良いかと思えます。また、学校で必要なものをリサイクルできる仕組みがあると良いと思います。新品でなくても良いと言う話は聞きます。日本の文化を理解しようと思っていない、守りたくないわけではない、どうしていいかわ

からないというのが一番多いのでは。

赤荻教育委員

技能実習生と今までどのようにコミュニケーションとっていたかを考えますと、特別問題ない時でも2ヶ月に1回ぐらい定期的に、通訳をつけて個別面談してました。学校でも定期的に自国の言葉で喋れるような、面接的なものがあると、保護者は安心するのかなと思います。

また、コミュニケーションという部分では、いろんな外国の方が来ていますので、日本人の保護者や児童も集めて各国の料理を提供して交流できたら楽しいのではないかと思います。

谷中教育委員

子育てや教育に関する情報発信について教育委員会が一括の窓口になり、英語で対応できるようになると良いかと思います。

八千代町は英語教育にこれから力を入れていくというお話を伺い、生きた英語、使える英語を目指していただきたいです。外国人の方が多くいる土台を生かして、お互いのコミュニケーションをするためのツールとして生きた英語を学んでもらいたいです。また、外国人保護者へも地域があげて支援できるような枠組みがあると良いと思います。

野村町長

今、全国で300万人の外国人がいて実習生の制度も大きく変わります。多文化共生は待ったなしの状況です。現在、ボランティアさんが日本語教室を実施してくれています。その生徒の中には英語が上手な方がいて、逆に英語を教えてもらってます。子供たちにきちんと英語教育をして日本や世界で活躍してもらえようような子どもたちを育てる土台を作りたい。公約通りふるさと納税のお金を英語教育の方に入れさせていただきたい。

知識は生きていくうえで重要です。どんな環境でも自分で考えて行動できる、そういう子どもたちを育てる中で、大事なのは知識なんだろうと思います。知識があるからいろんなことを考えて行動できるようになる。そこにお金を予算を計上する分には、私は理解を示しております。教育長にもそのように話しております。

また、外国人の働く制度が変わって家族の帯同も認められるようになると、医療であれ、学校であれ、福祉であれ、受け皿を準備する必要があります。町内行政区でモデル的にゴミの出し方、八千代町の生活の仕方について、外国人を対象とした説明会を行ってほしいという声があります。

谷中教育委員

家族帯同となると地域との関わり合いや繋がりがないと生活できないのではないのでしょうか。コミュニティの再整備が必要になってくるのでは。外国人の方々も地域の中に入ってきていただいて、お互いの交流を持てるようになれば、本当の意味での多文化共生にはなるのでは。

野村町長

言葉の通りいろんな言語や生活習慣の違いのある人たちが、共生という形になりますので、深い話になってくるかと思います。企業も農家の方々も外国人の労働力を頼ってるという現実を受け入れてもらいたいんです。経済の一部をすでに外国人が担ってる、そういう国にもうなってるわけですから、多文化共生の理解も力を入れていきます。

(4) その他について

谷中教育委員

保護者の負担軽減について、教育後援会費振興会等を町の財源から出すようになることは、子育てが他人事になってしまうのではないかという事が心配です。「地域の子供は地域の宝だ。八千代町をこれから支えていくための大事な宝だ。」というその思いを町民が共有していけると良いのでは。子育てをしている家だけに負担がかかって、子どもがいない孫もいない、関係ないと他人事になってしまうようなコミュニティになってしまうと将来が心配になります。後援会がなくなり具体的な支援はしないとしても、せめて意識の中では「町の大事な子どもを、町民が育てていくんだ。」という、意識を醸成していければ良いのでは。

だんだん他人事になり、全部行政任せ、全部税金でとってきてしまうと、非常にこれから先が厳しくなっていく感じがします。例えば給食費の無償について、八千代町は農業の町なので、その食材について寄付みたいなものを募って、地域としてもバックアップしようとする動きがあると良いと思います。みなさんが意識を持って子育てをするような、教育をするような、雰囲気を作っていくといういろんな形で行うことが良いのでは。

野村町長

税金から出すということは、各家庭から税金を集めさせてもらった中から出すわけです。後援会費を町予算で歳出することは、地域の皆さんが子供たちの教育を支えてくれている事に、変わりはありません。

地域が学校から離れない、今後も地域に寄り添ってもらえるような、学校づくりの取り組みは必要だろうなと思います。